

在校生・卒業生・保護者・教職員

進路通信 2017/11 後期

北海道釧路湖陵高等学校進路指導部

◆特集 そろそろ受験校（併願校）を見定める◆

本号は「受験校決定の方法・受験の旅路」についての内容です。
この時期ただでさえ忙しい「第3学年＝受験生」の皆さんの頭を痛めるのは「実際にどこを受験するか？」という受験校の選択です。バブル全盛の頃ならいざ知らず、「下手な鉄砲も数撃ちゃ当たる」などと悠長なことも言っていられません。保護者になるべく迷惑をかけないように出来る限り少ない費用で、最大限の効果をあげるにはどうしたらよいか、この時期、再確認しなければなりません。

1. センター試験まで2ヶ月を切る、国公立2次まで3ヶ月

確かに時間はあまりありません。しかし、「もう少し1・2年の時からやっておけば」など、余計なことを考えていても仕方ありません。模試の結果がふるわない人の中には、来年度予備校等でもう一度やり直すんだと考えている人もいますが、今年度の残り少ない期間もともにできない人が、来年1年という長い時間を有効活用して、大いに成績を伸ばすなどということはありません。幻想は捨て、残り時間をどう使うか考えていきましょう。人間、真剣になれば、2ヶ月でかなりのことができるはずです。

2. 国公立大学を受験する場合

1) 目標に向かって邁進するしか方法はないと割り切る

家庭の経済状況から「国公立大学以外は絶対に進学を認めない。」と保護者に念をおされている人もいます。特に国公立大学を専願で受験する人は、冷たい言い方に聞こえるかもしれませんが、スポンサーである保護者が明確に条件を提示している以上、いかに困難でも、ひたすら頑張る以外に方法はありません。私大との併願の人も含めて、以下の2点に注意して下さい。

①ここに来て安易に科目減をしないこと

文系6教科7科目、理系5教科7科目をまんべんなく学習するのは、非常に困難で、人によっては苦痛を伴うものです。しかし全国の受験生もきつと同じことで悩んでいるはず。苦しいからといって安易に科目減を図ると、せっかくのチャンスを棒に振ることになってしまいます。現在、模擬試験の結果等を見ると異常に志願倍率が高いのに、最終的には実質倍率3倍程度でおさまるのは、途中であきらめ、抜けていく人間が多いからです。最後まで我慢をした人間が勝つというのは、受験の鉄則です。すでに担任の先生と面談等で確認の上、科目を絞って勉強し続けている人は別として、ここに来ての科目減はおすすめできません。このことは第1・2学年の皆さんも肝に銘じて欲しいと思います。

②勝負はセンター次第と割り切ること

本校の進路指導方針は「志を高く持ち、易きに流れない」ですが、受験は個人の思いだけ

で成り立つものでもありません。家庭の状況等も勘案しなければなりません。浪人に難色を示す保護者の方もいると思います。「志望校はセンター次第」と割り切って、センター試験後に志望校を変えることも、場合によっては必要です。ゆえに保護者の方との話し合い（打ち合わせ）が大切なのです。

2) 第1志望校の願書を取り寄せるだけでは、不十分である

志望校の願書を手に入れておくことは大切なことですから、そろそろ実行してください。出願書類はすべて自分で手に入れるものですから、覚えておいて下さい。理系の生徒で、現在前期日程で北海道大学を志願しており、後期日程で室蘭工業大学への出願を考えている生徒がいたとします。その生徒が、北大と室工大の願書を取り寄せるのは、当たり前ですが、それだけでは、足りません。それはなぜか、センター試験後のスケジュールを確認してみるとわかります。

1月13日（土）	14日（日）	センター試験
	15日（月）	自己採点
	18日（木）	ごろ 自己採点結果が学校に到着
20日（土）	21日（日）	出願校に関する面談（学校にて）
	1月31日（水）	前・中・後期日程出願〆切

センター試験の自己採点の結果を見て、多くの人は出願しますが、〆切まで、意外と日数がないのです。もし、願書が手元になかったら、その時、大至急取り寄せなければなりません。しかし、全国の受験生が、願書取り寄せに殺到するのも実はこの時期です。出願校決定→願書取り寄せ→願書到着→願書記入→受験料等振込→写真等貼付→願書送付と同時に、変更した出願校までの交通機関や宿泊先の予約もしなければなりません。しかも前期も後期・中期もすべて〆切は同じなので、全ての日程の試験について上記の作業をしなければなりません。願書が手元にないと、こういう手順を踏むことになります。ゆえに、願書は、現在の志望校だけではなく、もしかしたら出願することになるかもしれない学校についても手に入れておくことを強くおすすめします。出願校をどうするかについて難しい判断が求められる場合もあります。上記の作業は、文字で書いているほど簡単に進むとは限らないものなのです。落ち着いて悔いのない進路選択をするためにも、願書は、受ける可能性のある学校については手に入れておきましょう。

ちなみに上述の例で、記述力は身についてきているが、残念ながらセンター試験の結果は北大には及ばない点数だったとします。前期は岩手大学を出願、後期はセンター試験の点数が低くても、2次の記述力で逆転可能である北見工大に出願となるかもしれません。

センター試験で失敗した場合、思っていたよりも記述で勝負できなくなる場合など、出願校をどこまで担任の先生と事前に詰められるかが勝負です。

3) 前期日程は本命勝負、後期日程も必ず出願！

国公立大学は最大3校まで受験できますが（※一部独立日程を除く）、「前期」に合格し、入学手続きをとると、「中期」「後期」に合格する権利を失います。つまり実際の所は「本命＝前期」だということです。これは分かっていると思いますが、後期日程にも是非出願してほしいと思います。近年の後期日程の欠席率といい、合格しても辞退する人の数といい、一時よりも増えています。それくらい、3月20日すぎに合格が決まる後期日程まで頑張れない受験生が増えています。加えて後期日程は、普通の学科試験ではなく、「総合問題」「小論文」「面接」などを課す学校も多いのです。そんな得体の知れない試験を受けるよりも、受かった私立大学に行こう、予備校を予約しようと考えてしまう人も多いのです。もったいないことです。後期日程も国公立大学の立派な入試です。

ここ最近、後期日程で合格した湖陵生の特徴としては、①日頃の授業にまじめに取り組んでいた生徒（試験範囲があいまいな総合問題などは、そういう人が力を発揮することもあり

ます。) ②あきらめて私大に行こうかなと考えつつも、きちんと試験会場に行き、後期日程を受験した生徒 (受験することが合格のはじまりです) ③担任の先生等としっかり受験校の打ち合わせをした生徒 (記述力等を勘案して) ④これを学びたい、これになりたいという気持ちが人一倍強い人 (面接等で高評価だったのだろうか) があげられます。

後期日程のことも、真剣に考えたプランをたてましょう。

3. 私立大学を受験する場合

1) 方針を決める (再確認する)

方針を再確認するとはどういうことでしょうか。過去の先輩達の私大受験の方針の例を見てください。

①〇〇大学を最低ラインと考え、そこにすら合格できなかったら浪人やむなし。

②学科は経営学科と法律学科とで迷っている。受かったらどちらでもいく。でも大学はA大学かB大学・C大学の3つのみで勝負したい。

③浪人は絶対できない。

④国公立を滑り止めに受けて、本命を私大で勝負したい。

などさまざまです。この方針を再確認したら、受験校を決めていきます。この方針によっては受ける大学や併願校の数もかわりますから、「方針」は大切なのです。この「方針」は「覚悟」と言い換えてもいいかもしれません。

2) 基本は、学内併願・学外併願の両面作戦

現在の私大入試は、○方式、△方式、□方式と複数の受験チャンスを用意しているところが多いです。学内併願には2つの考え方があります。1つは、複数の方式を併願することです。基本は、あまりにも自分に不利な条件がないかぎり、複数の方式を併願することが基本です。ただし、学内併願にはもう1つの考え方があり、他学部も併願するという作戦も有効です。第1志望の学部はあると思いますが、この学部なら受かったら行きたいという学部が他にあれば、受験してみることが望ましいです。先ほどの「方針」の②の例のような人は当然、経営・法律の両方を併願することになります。

ここで注意です。何でもかんでも学内併願すればいいというわけではなく、「滑り止め」の場合は、「学内併願せず勝負する」こともあるでしょうし、臨機応変な対応は当然必要になります。

また、学外併願も大切です。第1志望の大学はあると思いますが、同じ学問領域をもつ他大学も当然併願しなければなりません。このいろいろな大学を併願するというのは、ある程度毎年、意識している生徒が多いので心配はしていないのですが、学内併願という発想を持っていない生徒がいるので、今回はあえて書きました。

ところで、「私大はいくつくらい併願すればいいんですか」という質問を受けることがあります。上限はもちろんありません。受験日の異なる大学は、好きなだけ出願することができます。しかし、受験料もかかることですから、よく考えなければなりません。

★学内併願・学外併願をするときのポイント

- ①同じレベルの大学ばかりの併願か、レベルを散らした併願か
- 同じレベルの大学ばかりを受ける併願は、このレベル以外は行かないという覚悟と、保護者の了解も必要になると思います。少しはレベルを散らした併願が一般的です。
- ②試験日も併願先を決める大切な要素
- 第1志望A大学の試験が2／10・併願先B大学が2／15・併願先C大学が2／16だったとします。すべて東京での試験だとすると、2／10～16まで東京にいることは確

実です。ならば、せっかく飛行機代を出してもらって受けに行くのですから、もしあと1つ併願するなら、2／12や13あたりで併願先を探すのも1つの手です。本来は、自分の志望から大学を考えるのが大切ですが、お金との相談になるのが受験というものです。無理にとは言いませんが、試験日も併願先を考える大切な要素になり得ます。

さらに、こんな考え方もあります。第1志望を最初に受験するというのは、緊張するし、避けたいという人は2／8あたりに併願先を入れるという方法もあります。しかし、欲張って、東京で毎日、試験というのも疲れると思いますから、そのあたりも考慮して下さい。

③国公立大受験と併願する場合

私大受験期間 (2月上旬～中旬) は、国公立大の2次試験に向けた勉強が思うように出来なくなるので、併願方法・出願数等に注意が必要。ただし、これは個人差や最初の方針に関わることなので、一概には言えません。たとえば、国公立大・私大に行きたい度合いが半々くらいずつの場合は、私大の併願先はあまり少なくする必要はないでしょうし、仮に国公立大がメインだったとしても、私大にきちんと出願した方が落ち着いてメインの国公立大入試に臨めるというタイプの人もいでしょう。ゆえに、担任の先生等とよく相談してみることが大切です。

④私大のセンター利用入試について

- 1 センター試験の得点のみで可否を決めてくれることが多いので、わざわざ出向く必要がなく、交通費等の節約になります。
- 2 ただし、かなり難しい入試になることもあるので、本命の学内併願としてはいいですが、本命の大学をセンター利用入試のみで受験するのは無謀です。
- 3 センター利用入試は、センター試験前に出願を締め切る学校と、センター試験の自己採点の結果を見てから出願できる学校とがあります。締切をよく確認してください。
- 4 国公立大用に、5教科勉強してきた人は、有名私大において、5教科型のセンター入試を実施している学校もあります。意外と合格最低点が低い場合もありますから、調べてみる価値はあると思います。
- 5 安全校 (滑り止め) にセンター利用入試を使うという方法もあります。

⑤札幌で受験できる東京・関西の私大はかなりあるので、必要に応じて活用を。

4. 受験の旅程をかためる (国公立大・私立大等)

すでに旅程を考えて、予約等にも動き始めていると思いますが、受験の旅程を固める時期になりました。以下にポイントをまとめます。

- ①受験に関する書類 (願書等) は国公立大・私大を問わず基本的には個人で準備する。
- ②一般入試の出願も個人の責任で行う。書類の不備や締切日の遅れ等がないよう、しっかり要項で確認すること。不備や遅れは受け付けてもらえず、受験そのものができません。
- ③受験に関わる交通機関・宿泊先等の予約も個人の責任で行う。

- ④受験日の前々日には受験地になるべく入る。(雪等で交通に支障が出やすい時期ですから)
- ⑤札幌の雪祭りシーズンは宿泊先がとりにくくなるので、早めの予約を。
- ⑥確実に受験することが決まっているなら、飛行機の割引運賃等も使える。
- ⑦キャンセル料がかかる時期、かからない時期等があるので、確認して予約を。

⑧国公立大受験の場合、センター試験後、志望変更する受験生が多く、念のため押さえていた宿泊先をキャンセルすることになります。ゆえに、その時期に、キャンセルが出ますから、希望の宿泊先が現段階でとれなくても、念のため宿泊先を確保した上で、希望の宿泊先のキャンセル待ちに入れておくというのも方法です。